事 例 報 告 の 要 約

分科会 ： 美術・博物館/ホールなど施設系ボランティア

団体名（会員数）	（団体の住所／連絡先）		
北九州市立長崎街道 木屋瀬宿記念館	〒807-1261 北九州市八幡西区3丁目16－26		
	（電　話）	（FAX）	（活動範囲）
（ 20名 ）	093-619-1149	093-617-4949	周辺地域
事例報告者	木屋瀬郷土史料保存会 松 尾　　良 美		
（タイトル）	長崎街道木屋瀬宿記念館の みちの郷土史料館と木屋瀬 郷土史料保存会		

皆さんこんにちは！木屋瀬郷土史料保存会の松尾と申します。82歳になります。
私どもの木屋瀬は、北九州市八幡西区の南にあり、JR黒崎駅から筑豊電鉄で約30分のところにあります。長崎街道には 全長約 58Kmに 25の宿場があり、黒崎・木屋瀬・飯塚・内野・山家・原田は、筑前 6宿と言われております。 幕末の当時、木屋瀬宿は戸数 260戸、人口 1，600人、旅籠は 20数軒あったということで、赤間道を経由して唐津街道に連なる追分宿（分岐点）として栄えた宿場町でした。
木屋瀬宿記念館は、宿場時代に御茶屋・町茶屋がありましたが、その跡に北九州市が市の拠点施設として記念館を建設しました。土地の買収、建築費用など合わせて 20億円かかったと聞いております。

この記念館を紹介しますと、宿駅時代の生活調度品・古文書・農耕器具・炭鉱関係器具などを展示している「みちの郷土史料館」や、約300人が入場できる芝居小屋風の多目的ホール「こやのせ座」などがあります。また、寄付や委託された物品 約 1,460点を貯蔵する「収蔵庫」や、ボランティアなどの会合場所、見学者の昼食・休憩場所となる「ボランティア棟」などもあります。
駐車場は、記念館のすぐ裏と、そこから堤防を下った遠賀川の河川敷などにもあります。

「みちの郷土史料館」には、九州大学の名誉教授 丸山先生の寄贈による「丸山文庫」を備えております。受付・ロビーから入ってきますと、この史料館のメインともいえるジオラマ（立体模型）がありますが、 これは平成 13年九州芸工大の宮本教授の監修で、約 1千万円かかったと言われる江戸時代後期の木屋瀬の街並みを復元したものです。このジオラマの元になったのは、江戸時代後期の絵師「麻生東谷」が描き、護国院という寺に奉納された絵馬にもとづいて、実際の300分の1の縮尺で作成されています。

この外に、二階に上がるスロープの壁面には、当時の柳川藩の立花候が木屋瀬宿に入る時の送迎の様子等が映像で再現されています。また、江戸時代の旅で使われた道具の陳列や、現在 話題になっている山本作兵衛さんの作品も 4点展示されています。

これらの展示物は、昭和40年代当時 経済成長期にあたり 旧宿場町であった木屋瀬も生活環境の急変や世代交代により 家屋の新改築がすすみ、生活用品・古文書、あるいは農機具等の廃棄や散逸が著しくなりました。これを嘆いた当時の先人（先達）たちが、この失われてゆく古き貴重な品々を、各家庭より蒐集して展示しようじゃないかという動きが起こりました。

その当時の「館報・こやのせ」特集号が残っておりますが、これを町内の各家庭に配り、物品の拠出・蒐集を呼びかけています。また集まった1，460点の蒐集物は、出品資料調査一覧表として分類・整理されておりますそうして昭和42年3月、数百点におよぶ民具・農機具・古文書をはじめ 宿駅時代の物品・旧炭鉱の器具等が展示された「木屋瀬郷土館」が設立され、開館しました。
開館した郷土館の展示と運営を行なう郷土館専門委員会が、現在の「郷土史料保存会」の前身であります。

【ボランティアの活動状況と問題点】

(1) 今年 9月に実施した会員（20名のうち17名が回答）への意識調査から見えたもの。
○ボランティアの回数など実態は、月に二回が平均で、時間は 9時半から16時
○ボランティアで得たもの・・・①郷土の再認識、②学習意欲、③メンバーとの懇親、連帯感
○入館者数・・・昨年度は 5，416人で、小学生の団体入館者数が指導要領改定（授業時間を確保する）で減少傾向にある。
○案内・説明の実情について
説明の場所やタイミングに常に気を遣っている状況がみえてきましたが、まず、ジオラマの前で全体説明を行い、展示品のキャプション（説明文）には拘らず、皆で学習した木屋瀬宿の歴史的な事実の民俗資料に基づき説明を行なっています。

（タイトル）　長崎街道木屋瀬宿記念館の
みちの郷土史料館と木屋瀬 郷土史料保存会

(2)会員の展示品に対する学習会や視察の状況について
史料館内の案内や展示品の解説が、ボランティアの主たる活動ですが、柔軟な思考や史料的価値を学習するため お互いにお金を積み立てて、月一回の学習会や、見聞を広める 年一回春頃の日帰り研修視察と、ボランティア相互の親睦と交流を深める一泊旅行の研修を行なっています。
○学習会は、休館日の第2週目（月曜）に地域の公民館を借りて、10時から 2時間程度行なっています。
○史料館に川ひらたの資料が少ないので、堀川運河の川ひらたを見に行き、写真に撮って来館者に説明す時の補助資料として利用しています。

(3)展示品の説明をめぐって学びえたこと
○黒田家にちなむ「藤巴」と「橘」の二つの紋章について
開館した10年前に、来館者から盃の真ん中にある「橘」の紋は黒田家の紋章ではないのでは？との指摘があり、館もボランティアも当惑しておりましたが、数ヶ月して家紋の専門家 源　英一氏が資料を持参され、その紋章の由来を教えてくださいました。それによると黒田如水候が播磨の国の小寺家に仕えていた頃に使っていた家紋が「橘」である。その後、秀吉の中国攻めのとき中津から筑前に入ってから「藤巴」を使うようになった。さらに町人などが賜る盃などは、直接、黒田の紋ではなく播磨時代の「橘」を真ん中にして、その周りに変形した「藤巴」を描いたのだろう、と教えていただき大いに勉強になりました。

○佐賀藩鍋島候から下賜の大皿について
第 2次長州戦争で木屋瀬宿に滞陣のおりに庄屋が賜った有田焼の大皿から、どういう布陣をしたか、本陣は何処にあったか、また長州戦争がどのような引き金で起こったか等、ボランティアの学習会の中で勉強しました。

○三条実美公の箱入りの箸／五卿の昼食場所
五卿が九州落ちした慶応 2年1月18日に木屋瀬の森口屋で昼食を取っていますが、三条実美公が使った箸が展示してあります。その折、給仕をした「ふじ」という綿屋仁平の妹が三条公に「記念にください」と言って戴いた箸で、大事に桐箱にいれ、表には手彫りで「三条公乃御箸」と書かれております。
この展示品から、五卿が 慶応 2年 1月15日に彦島から若松、黒崎宿と 3泊して長崎街道を下って木屋瀬の宿に立ち寄り、森田屋という豪商の家で昼食をしたこと、また五卿の九州落ちの歴史的事実を把握したり、頂戴した箸を大事に子孫に残していった一族の心情に思いを寄せることができました。

○江戸時代の教育状況
館の 2階のスロープにあがる所にある掛け軸に、筑前の教育状況が伺える部分があります。それによると木屋瀬の寺子屋の師匠は、筑前の勤皇の志士 月形洗蔵の弟 月形　覚であった、とあります。
この月形洗蔵は、筑前藩の志士で、平野國臣らと連座したとして慶応 3年「乙丑の獄」で40数名と共に藩主から罰として処刑されております。
これを糸口として調べてゆくと、当時（安政六年）の庄屋文書『年中留書』という古文書が出てきました。それにも「洗蔵の弟 覚を木屋瀬の寺子屋の塾の師匠に任命する」という記述があります。当時、寺子屋の師匠になるにしても、郡の奉行所に庄屋から申立ての文書を書かないといけなかった事実もわかりました。さらに詳しく調べると、月形　覚　という人物は、明治維新となって兄が勤皇の志士であったということで、太政官政府から声がかかりお役人になった、という事実も判明しました。

○伊藤小左衛門の出生や墓について
史料館の 1階の片隅に、木屋瀬の豪商　伊藤家の系図・屋敷の鬼瓦・伊藤小左衛門の犯科帳写しなどが展示されております。小左衛門一族がどのように密貿易をやったか、ついに藩主忠之のときに召し捕らえられ一族郎党斬首されていますが、このあたりのことが、作家白水氏の小説「伊藤小左衛門」で詳しく記述されています。
また、記念館でも春の芸術祭の時に、小左衛門の研究をされている福岡大学の武野要子先生をお呼びして講演を行なっております。これにより木屋瀬は小左衛門ブームとなり、史料館の近くにある伊藤家の菩提寺・長徳寺にお参りする方が増えております。なお、寺の山門に寺の由来を書いた石碑がありますが、その中には「小左衛門の墓は、福岡の妙楽寺にあります」と彫ってあります。

(4)今後の手立てについて
○会員の高齢化の歯止めについて
現在のボランティアの平均年齢は 75歳で、何とか後継者を集めなければいけないと思っております。今までは知人を通じて集めていましたが限界を感じており、これからは年に 3回出ている広報誌『寄せ太鼓』をはじめ、社協だより『こやのせ』や、市民センターだよりに募集の呼びかけを載せなければ・・・と、考えています。
○町並み案内ボランティアとの交流を！
当地域で活躍している町並み案内のボランティア団体と連携して、説明等の勉強会も一緒にやってみようと考えております。